



立西学校だより 10月号の2

尼崎市立立花西小学校

校長 廣井 尋美

こつこつ 続けましょう ♪

10月16日の朝会で、「こつこつ続けること・こつこつ努力することは大切です！」というお話をしました。

それは、体育大会が終わっても、毎日廊下などで行進の練習をしている子ども達の姿があって、嬉しかったからなのです。毎日、こつこつ続けることは、とても大切です。こつこつ続けることを「努力する」という言い方をする人もおられます。

私は、常々、こつこつと続ける姿に、尊敬の念を持ちます。たとえそれが、1年生であってでもです。黙って、いつもトイレのスリッパの乱れを直してくれる子。寒くても、水拭きを一心にしている子。友だちが泣いていたら、必ず声をかけてあげる子。帰りにそっと、隣の子のイスを直してあげる子等々。

保護者の皆様もよく知っておられると思いますが、イチロー選手も「努力の人」です。『イチローは天才ではない』という本が出ているくらいで、幼い頃は地元の少年野球チームに入っていて、毎日、キャッチボールを続けていたそうです。高校時代に、自転車で通学中に事故にあってケガをしたために、投手から野手に変わらざるをえなくなったそうです。あきらめずに、めげずに、くさらずに、続けてまた、野手の練習をこつこつと続けたそうです。

また、この度、iPS 細胞作成でノーベル賞を受賞した山中教授も、マウスの肝臓から未知の遺伝子を発見し、ES 細胞と出会ったそうです。この ES 細胞との出会いが、iPS 細胞作成へ繋がったようですが、研究所に泊まり込みの生活だったそうです。

「研究に使わせてもらうマウスのえさやり・糞のそうじなど、すべて自分でやらないといけなくて、自分は、マウスの世話人なのか～研究者なのか～わからなくなって、本当につらかった・・・」と。でも、研究をこつこつと続けたそうです。

どんなことも、どんなささやかなことも、毎日毎日こつこつと続けていくことで、それが自分の中で当たり前になっていくのです。そして、自分の力になっていくのです。

皆さんひとりひとりには、それぞれ良さや得意なことがあります。得意なことに、このこつこつ努力を続ける姿が合わさると、将来、イチロー選手のような人・山中教授のような人も出てくること、間違いなしでしょう。

皆さんには、無限の可能性があるので、その可能性を大切にしてください。そして、友だちの可能性もそっと感じてあげて下さいね。 ← そんなお話をしました。

立花西小学校の様子(10月)



秋の夕日にてらされて、校庭の木々も色づき始めました。



5年生の農園では稲刈りを終え、脱穀を待つばかり。立西農園ではおいものが元気に育っています。



職員室前には調理師さんの紹介を掲示中。図書室では、図書週間にむけ、準備万端です。